

ハイブリッド技術を駆使したエコカーを生産 三菱ふそうトラック・バス株式会社

今回は日本を代表する商用車メーカー、三菱ふそうトラック・バス株式会社（川崎市、アルバート・キルヒマン社長）の川崎製作所・技術センター取材した。国内のトラック・バスメーカーは4社に選ばれている。1932（昭和7）年に誕生した「ふそう」ブランドはパイオニアとして全国で知られ、海外でも耐久性に優れた低燃費で地球環境に優しいエコカーとして好評を博している。2003（平成15）年、同社はドイツのダイムラー社のトラック部門の一員となった。以来、日本を含むアジア・オーストラリア市場を中心にカバーし、最新のハイブリッド電気自動車（HEV）技術を駆使した小型トラック「キャンターエコハイブリッド」の開発・生産拠点としての役割を担っている。

創業の経緯

三菱ふそうの創業は1932（昭和7）年。旧三菱造船神戸造船所において、B46型ガソリンバス「ふそう（ハイビスカスの別名）」を完成させ、中型エンジン専門の生産工場として企業活動を開始した。34（同9）年、三菱造船は三菱重工業に社名変更。1949（同24）年、三菱重工から分離され、ふそう自動車販売として設立された。1964（同39）年、新三菱自動車販売と合併し三菱自動車販売となり、1970（同45）年、アメリカのクライスラー社との合併に伴い、三菱自動車工業となった。

一方、川崎製作所は1941（昭和16）年、三菱重工業東京機器製作所川崎工作部として発足。大型自動車、高速ディーゼルエンジンを生産していた。1970（同45）年のクライスラー社との合併の際、三菱重工から分離され、三菱自動車工業東京自動車製作所と改称された。その後2003（平成15）年、三菱自動車工業から分離され、ダイムラー社の出資を受けて三菱ふそうトラック・バス株式会社として設立され、今日に至っている。

事業体制の変遷

三菱ふそうは創業以来、馬力が強く頑丈な商用車づくりを目指し今年で78年目を迎える。国内の生産拠点は、大型～小型トラックや産業用ディーゼルエンジンを生産する川崎製作所（川崎市）、歯車加工工場の中津工場（神奈川



産業用エンジン M シリーズ／6M60-TL

奈川 愛甲郡）、小型バスの生産拠点の大江バス工場（名古屋市）、大型・中型バスの生産会社の三菱ふそうバス製造株式会社（富山市）がある。大江バス



小型トラック キャンターエコハイブリッド



大型トラック スーパーグレート

工場は富山の生産会社に統合する予定。海外では、ポルトガルに小型トラック「キャンター」専門の生産工場（年産約1万台）や、タイに大型～小型トラックの組立工場があり、川崎製作所から部品を搬入しノックダウン式生産を行っている。アメリカには販売店がある。

販売網に関して、同社は市場変化に適正に対応するため、従来独立していた国内販売会社の一部を統合し、開発・生産・販売・アフターサービスまで一貫して行うフルサポート体制を敷いている。それにより、年間約10万～20万キロを走行するトラックやバスの定期点検を励行し、車輛の部品交換に迅速に対応できる体制を整備した。なお、本社所在地は川崎市幸区鹿島田890-12、資本金200億円（ダイムラー社85%、三菱グループ各社15%）。従業員約15,400名（連結）。2008年の販売台数は国内4万2千台、海外15万5千台、合計19万7千台となっている。

販売に注力していく製品

今、トラック・バスメーカーには低燃費・低騒音・低NOx・高耐久性という4つの課題解決が求められている。三菱ふそうは、低燃費で低騒音の排気ガス対策型産業用エンジン「Mシリーズ4タイプ」を建設機械やトラック・バス向けに販売を推進していく。トラックに関しては大型トラック「スーパーグレート」のほか、最先端のディーゼルハイブリッド電気自動車（HEV）システムを搭載した小型トラック「キャンターエコハイブリッド」を世界市場で積極的に売り込みを図っていく。また、自動車事故低減に向けて次世代安全技術の開発など、引き続き環境技術と安全技術の開発を積極的に進めていく。